

令和3年10月1日

南の風 For Junior63

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

トライアングルオフENSEの続きです。できるだけ分かりやすく攻め方を書きます。

アライメントをもう一度確認します。プレーヤーの位置や動き方を、図に描きながら読み進めると分かりやすいと思います。攻めるゴールに向かって、右サイドから攻めたとします。

ボールを1番(PG)が運び、右ウイングの2番(SG)にパスしたとします。この間に、5番(C、4番や3番のF選手でも構いませんが)はローポストの位置を取ります。4番(PF)は、逆サイドのローポスト付近に動きます。3番(SF)は、トップ付近に位置取りします。

1番はボール運びから、ウイングの2番にパスします。その後、1番は右コーナーヘカットします。通常ですとこのカットは、2番から5番へのパスコースを潰すことになるので、いいカットとは言えないのですが、トライアングルオフENSEでは敢えて、このボールサイドカットをおこないます。

ここからがトライアングルオフENSEの大事な局面となります。パスを受けた2番のパスの出どころは、次の4つになります。

①ローポストに入れる ②カットした1番にパス ③3番にパス ④逆サイドから上がる4番にパス

パスを受けた2番は一瞬間を空け、それぞれの味方についているディフェンスの状態を見極めて、誰にパスするかを選択します。この2番目のパスがトライアングルオフENSEのキーになります。

①のシチュエーションから見ていきます。

2番から5番にパスが入りました。このときコーナーの1番は、バックドアカットで合わせます。ボールが来なければ、そのまま逆サイドに抜けます。パスを出した2番は、やはりバックドアカットで逆サイドにいけます。そのとき4番のディフェンスにダウンスクリーンをかけます。4番はスクリーンを利用してティーアップ(エルボー付近に上がる)します。このようにカットするとディフェンスは5番にダブルチームすることができなくなります。

そうすると、5番は完全な1on1のアイソレーション(1対1を仕掛けやすくすること)になるので攻めやすくなります。もちろん、カットする味方へパスすることもできます。

②のシチュエーションは、2番からコーナーの1番にパスが入った場合です。

5番が2番のディフェンスにバックスクリーンをかけます。2番はスクリーンを利用してペイントにカットします。ボールが入らなければ逆サイドにアウェーします。5番はそのまま1番のディフェンスにピック&ロールを仕掛けます。1番は自分のドライブや5番のダイブに合わせて攻めます。4番はティーアップで、2番、3番は外で合わせるようにします。

③のシチュエーションです。5番にも1番にもボールが入らなければ、3番にパスして局面を変えます。4番はこのパスに合わせて左のエルボーにフラッシュします。3番は4番にパスしてシザーズ(4番の側をカットしてハンドオフパスをもらう)します。4番はハンドオフか自分がドライブしたり、そのままシュートしたりして攻めます。もし4番にパスが入らなければ、4番が3番のディフェンスにピック&ロールを仕掛けることもできます。 続きは次号にします。